

茶病虫害防除情報

令和2年12月10日

【第20号】

鹿児島県経済連・肥料農薬課

令和3年茶栽培暦（防除暦）について

県内各地区の令和3年茶栽培暦改定検討会は終了しました。今回の改定では今年の病虫害の発生や防除上の問題が比較的になく、また新規登録農薬も少なく、米国等輸出茶の残留基準設定追加も殆どなかったことなどから改定は少ないでした。地区茶栽培暦を4パターン(南薩地区米国輸出対応版、日置地区台湾輸出対応版、北薩地区版、始良・曾於・肝属地区版)(表)に整理しました。栽培暦の概要と防除をすすめる上での考え方を少し解説します。

1 栽培暦の概要と防除進め方

- **炭疽病**・・・梅雨期になる二・三番茶期の補完と秋芽生育期基幹防除が設定されていますが、今後一番茶を重視した生産や更新園が増加するため秋芽生育期の防除が重要になると思われます。二・三番茶期の萌芽ー1葉期はダコニール1000、銅水和剤のクワロシールド[®](輸出茶)などで防除されますが、最近増加しているドリンク茶栽培では摘採を遅らせるため摘採葉への発病を防ぐためダコニール1000にEBI剤のインダゴフロアブルなどを低濃度で混用して散布すると上手く防除出来ます。基幹防除の秋芽生育期は従来萌芽ー1葉期と3ー4葉期の体系で防除されてきましたが、新たに開発されたダコニール1000とEBI剤のインダゴフロアブルなどとの混用による3ー4葉期1回散布法はかなりの地区で採用普及してきました。新梢枯死症、網もち病などにも体系防除より安定して高い防除効果が得られます。なお、混用3ー4葉期散布は萌芽後最初の降雨から12日後頃を目途に散布することが最適です。
- **輪斑病**・・・高温時に発生しやすい病害で、主に三番茶摘採後のカシホルト[®]散布が基幹防除となっていますが、摘採・整枝直後に散布を要するため現場ではかなり防除が難しいようです。この時期の防除は秋芽生育期の新梢枯死症発生にも大きく関与しますので、大切な防除です。
- **網もち病**・・・最近発生が増加している病害で、多発生すると被害が大きいですので、今後注意を要します。本病の主要感染時期は秋芽生育期後半の8月下旬～9月中旬頃で、多湿条件で感染します。今年も8月下～9月に雨天日が多かったためかなり多発しています。防除は秋芽生育期の炭疽病などの体系防除法、混用防除法でも効果を示しますが、さらに1週間後4ー5葉期に銅水和剤のクワロシールド[®]などの散布を行うと効果的です。銅水和剤は本病に効果が高く、有機栽培などでも2ー3回散布すると上手く防除出来ます。
- **カンザワハダニ(サビダニ類)**・・・最近ハダニの発生は減少傾向で、大きな被害は少なくなりました。これは、現在使用殺虫剤の選択性が大きく、カブリダニ類など天敵への影響が少なく、天敵の活動が活発なためと思われます。主要発生期の春期の発生も少なくなり、特に従来重要な防除時期であった秋期の発生は顕著に少なくなり、栽培暦の採用もなくなりました。代わりに8月頃、秋芽生育期に更新園等で毎年発生が多くなっています。更新園の発生は、中切り、深刈りなどで、一時的に葉層内の天敵密度が低下するためと思われます。防除は春越冬後増殖期に残効性の優れるダニゲッターフロアブルなどによる基幹防除は重要と思われます。また、更新園等の秋芽生育期防除の必要性

も高まり、ハダニの全ステージに有効な速効性のダニサバフロアブル、マイトコーネフロアブルなどによる補完防除が薦められます。サダニ類の発生は最近多い傾向で、一番茶後から二番茶期に一時的、極地的に発生しています。春越冬後のダニゲッターフロアブルによるハダニとの同時防除ができますが、発生が多い場合は一番茶摘採後などにサマイトフロアブルを散布すると効果的に防除出来ます。

○ **チャノミドリヒメヨコバイ** **チャノキイロアザミウマ**・・・茶の害虫では収量、品質に最も被害が大きく、また発生期間も二番茶期から秋芽生育期まで長期にわたり発生するため年4-5回基幹防除がすすめられています。防除薬剤も抵抗性発現等を考慮し、系統の異なる剤を配置した防除となっています。二番茶期ウラ DF、三番茶期ネコチノイト系のスタークル顆粒水溶剤、秋芽萌芽期ジアミト系のエクセル SE、テツパン液剤およびコテツフロアブル、3-4葉期ガンバ水和剤などが概ね固定化されています。

○ **チャノココクモンハマキ** **チャハマキ**・・・最近発生は穏やかな状態で、一番茶後、二番茶後秋期に発生みられますが、被害は少ないようです。特に防除を要するのは秋期発生で、各地区とも秋芽生育初期のエクセル SE、コテツフロアブルなどによる体系基幹防除や9月(第4世代)のディアナ SCによる補完防除で対応されています。ハマキ天敵の使用は少なくなり、ハマキコン N はローブ製品になり南薩地域の一部で普及が進んできましたが、広面積一斉処理が必要と思われます。

○ **チャノホソガ**・・・二三番茶期に発生すると製茶品質に影響し、一昨年は南薩地域の一部で薬剤抵抗性発現のため多発生し、被害が問題になりました。今年の発生はやや多い程度でした。二番茶期は被害が大きいため、IGR 剤のファルコンフロアブル、カスケード乳剤、ジアミト系剤のサマルフロアブルなどで防除がすすめられています。萌芽後の新芽への産卵、潜葉幼虫を確認し防除することが効率的です。また、薬剤抵抗性発現が地域により異なりますので、地区栽培暦採用薬剤で防除します。

○ **クワシロカイガラムシ**・・・発生は最近かなり少なくなり、枝条枯死、樹勢衰弱、茶葉黄化などの被害はみられなくなりました。これも選択性殺虫剤の使用などによりコバチ類、タマハエなど天敵類の活性化が影響していると考えられます。また、持続効果の優れるフルート MC の普及効果も高いと思われます。第1、3世代などの幼虫ふ化最盛期防除の必要性はかなり低下してきました。

○ **チャトグコナジラミ**・・・県内殆どの産地に発生が拡大し、被害が心配されましたが、乱舞による作業性への影響や煤病発生などの発生程度の高い状況は少なくなりました。スペシャル天敵シルバーストリコバチの分布拡大、定着による影響が大きいと思われます。薬剤防除も第1世代幼虫期アプロードエースフロアブル、第3世代ガンバ水和剤などによる他主要害虫との体系同時防除の効果も大きいようです。

○ **その他マイナー病害虫**・・・赤焼病の発生は極局部的発生で、少ない状態が続いています。今後多発生の懸念は少ないと思われます。マダラカサハムの発生は増加傾向で、秋芽生育初期の他害虫との同時防除の必要性は高まってきました。モギエダシク、シロシ類の発生も局部的にみられています。

2 令和3年新規登録農薬、登録内容変更について

殺菌剤 ベフトー水和剤、バルコート水和剤 フロアブル・・・使用時期変更 7日前まで

殺虫剤 新規登録

アファームエクトラ顆粒水和剤 (使用場面少ない) ヨーバルフロアブル (ジアミト系 チャノホソガに未登録)

3 輸出相手国の農薬残留基準値(MRL)の設定状況

殺菌剤 スコア顆粒水和剤(EBI 剤) 日本 15 ppm 米国 15 ppm EU - 台湾 5 ppm

一般茶栽培地域向け体系（栽培暦）

※ ◎基幹防除、○補完防除、●臨機防除

月旬	茶期	防除時期	対象病害虫	防除薬剤（希釈倍数）	
				その1事例（始良・曾於・肝属）	その2事例（北薩・出水）
2月		越冬期	○クワシロ	ブルートMC（1000倍）	ブルートMC（1000倍）
3月上 下	一番茶	増殖開始期	◎ハダニ ◎ハダニ・サビダニ	ハ ^レ ロックフロアブル（2000倍） ダ ^ニ ニゲッターフロアブル（2000倍）	ダ ^ニ ニゲッターフロアブル（2000倍）
		萌芽前	○ハマキムシ類	ハマコンN（30-50m）	ハマコンN（30-50m）
		萌芽期	○ハダニ(多発生園)	ダ ^ニ ニサラハフロアブル（1000倍）	ダ ^ニ ニサラハフロアブル（1000倍）
		萌芽-1葉期	●カメムシ・アブラムシ	ア ^ク タ ^テ 顆粒水和剤（3000倍）	
4月					
5月上 中 下	茶後	第1世代幼虫発生期	○クワシロ・チャトゲ	ア ^ブ ロート ^エ スフロアブル（1000倍）	ア ^グ リメック（1000倍）
		第1世代若齢幼虫期	○ハマキムシ類	ハマキ天敵(2000倍) (ハマコンN又は)	ハマキ天敵（2000倍）
	二番茶	萌芽-1葉期	◎ウンカ・スリップス ○ホソガ ○炭疽病・黒葉腐病	ウ ^ラ ラ DF（1000倍） カスケード ^レ 乳剤（4000倍）又は ファルコンフロアブル（4000倍） ダ ^コ ニール 1000（1000倍)(700倍)	ウ ^ラ ラ DF（1000倍） サムコルフロアブル（4000） ダ ^コ ニール 1000（1000倍）
		摘採直後	○輪斑病		ア ^ミ スター 20フロアブル（2000倍）
6月中 下	三番茶	萌芽-1葉期	◎ウンカ・スリップス・ホソガ	スタークル顆粒水溶剤（2000倍）	スタークル顆粒水溶剤(2000倍)
			○炭疽病・黒葉腐病	ダ ^コ ニール 1000（1000倍)(700倍)	
7月	茶	最終摘採直後	◎輪斑病	カ ^ス ミンボ ^ル ト ^ー （1000倍）	カ ^ス ミンボ ^ル ト ^ー （1000倍）
7月下	四番茶	更新園 最終摘採後等	○ウンカ・スリップス・ホソガ		ガ ^ン バ水和剤（1000倍）
8月上 中 下	秋芽生育期	萌芽-1葉期	◎ウンカ・スリップス・マダラ ホソガ・ハマキムシ	エ ^ク シレ SE（2000倍）又は テ ^ッ パン液剤（1000倍）	コ ^テ ツフロアブル（2000倍）
			◎炭疽病・新梢枯死症		ダ ^コ ニール 1000（1000倍）
		伸育期	○ハダニ等(更新園等多発生園)	マ ^イ ト ^コ ネフロアブル（1000倍）又は ア ^グ リメック（1000倍）又は コ ^テ ツフロアブル（2000倍）	マ ^イ ト ^コ ネフロアブル（1000倍）
8月下		3-4葉期	◎ウンカ・スリップス・チャトゲ	ガ ^ン バ水和剤（1000倍）	グ ^レ シア乳剤（2000倍）
			◎炭疽病・網もち病・新梢枯死症	ダ ^コ ニール 1000（1000倍） + イン ^ダ ーフロアブル(8000倍)(3種混用)	ホ ^リ ーワンフロアブル(2000倍)
		3-4葉期 7日後頃	○網もち病	ク ^ワ ロシール ^ド （1000倍）又は コ ^サ イト ³ 3000（1000倍）など	ク ^ワ ロシール ^ド （1000倍）
9月中		若齢幼虫期	○ハマキムシ・ホソガ・チャトゲ	デ ^イ ナ SC（5000倍）	
11月上		秋整枝後	○ハダニ チャトゲコナジラミ	ミ ^レ ハ ^レ ノック乳剤（1000倍）又は ア ^グ リメック（1000倍）	ア ^ブ ロート ^エ スフロアブル(1000倍)

一般茶・輸出茶栽培地域向け体系（栽培暦） ※ ◎基幹防除 ○補完防除 ●臨機防除

月旬	茶期	防除時期	対象病害虫	防除薬剤（希釈倍数）	
				米国輸出地域（南薩地区）	台湾輸出地域（日置地区）
2月		越冬期	○クワシロ	ブルートMC（1000倍）	ブルートMC（1000倍）
		初発確認時	●赤焼病	カスミノルトー（10000倍）	
3月上 下	一番茶	増殖開始期	◎ハダニ・(サビダニ)	タニケッターフロアブル（2000倍）	タニケッターフロアブル（2000倍）
		萌芽期	○ハダニ(多発生園)	タニサラハフロアブル（1000倍）	
		萌芽-1葉期	●カメムシ・アブラムシ	アクトラ顆粒水溶剤(3000倍)	
5月上	茶後	第1世代幼虫発生期	○クワシロ・チャトゲ	アプロートエースフロアブル（1000倍）	アプロートエースフロアブル（1000倍）
		第1世代若齢幼虫期	○ハマキムシ類	ハマキ天敵（2000倍）又は ハマキコンN（30-50m）	ハマキ天敵（2000倍）
5月中 下	二番茶	萌芽-1葉期	◎ウンカ・スリップス ◎ホソガ	ウララ DF（1000倍）＋ ファルコンフロアブル（4000倍）	ウララ DF（1000倍）＋ カスケード乳剤（4000倍）
			○炭疽病・黒葉腐病	クプロシールド（500倍）又は ダコニール1000(1000倍)輸出不可	ダコニール1000（1000倍）
6月中 下 7月下	三番茶	萌芽-1葉期	◎ウンカ・スリップス・ホソガ	テップン液剤（1000倍）	スタークル顆粒水溶剤（2000倍）
			○炭疽病・黒葉腐病	クプロシールド（500倍）又は ダコニール1000(1000倍)輸出不可	ベフトー水和剤（500倍）
		最終摘採直後	◎輪斑病	カスミノルトー（1000倍）	カスミノルトー（1000倍）
7月	四番茶 更新園 萌芽期	○ウンカ・スリップス・ホソガ	ダントツ水溶剤（2000倍）		
8月上 中	秋芽	萌芽-1葉期	◎ウンカ・スリップス・マダラ ホソガ・ハマキムシ	コテツフロアブル（2000倍）	エクシールSE（2000倍）
			◎炭疽病・新梢枯死症	フロンサイト SC（2000倍）	ダコニール1000（1000倍）
8月下	生育期	3-4葉期	◎ウンカ・スリップス・(チャトゲ)	スタークル顆粒水溶（2000倍）	ガンバ水和剤（1500倍）
			◎炭疽病・網もち病	インターフロアブル（5000倍）	インターフロアブル（5000倍）
		3-4葉期 (萌芽後最初の降雨 12日後頃)	◎ウンカ・スリップス・チャトゲ 炭疽病・網もち病・新梢枯死症		殺菌・殺虫剤3種混用散布法併記 ガンバ水和剤（1500倍）＋ ダコニール1000（1000倍）＋ インターフロアブル（5000倍）
		第3世代若齢幼虫期	○チャトゲ	アグリメック（1000倍） ガンバ水和剤(1500倍)輸出不可	
		3-4葉期7日後頃	○網もち病	クプロシールド（1000倍）	クプロシールド（1000倍）
9月中	若齢幼虫期	○ハマキムシ・ホソガ・チャトゲ	デイナ SC（5000倍）	デイナ SC（5000倍）	
11月上	秋整枝後	○チャトゲ	アプロートエースフロアブル（1000倍）	アプロートエースフロアブル（1000倍）	